

① 単元名 歴史 第一次世界大戦後の欧米諸国

② 単元の小学校とのつながり

学びに向かう力 人間性等	小3.4年	小5.6年	中学校
	○社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことをことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。	○社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことをことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の平和を願う日本人として世界の国々の人々と友に生きることの大切さについての自覚を養う。	○歴史に係わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで、見られる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚を深め、国際協調の精神を養う。

③ 単元に関する『ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度』

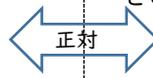
ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	関連	内容
① 批判的に考える力 (批) 合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力		(多) ①琉球とアイヌの地理的位置②これまでの琉球と東アジア、アイヌと北方との関係性③支配下に置かれながらの貿易などをそれぞれの立場から考える。
② 未来像を予測して計画を立てる力 (未) 未来像を予想して計画を立てる力過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力		
③ 多面的・総合的に考える力 (多) 人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解しそれらを多面的、総合的に考える力	◎	
④ コミュニケーションを行う力 (コ) 自分の気持ちや考えを伝えるとき、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力		
⑤ 他者と協力する態度 (他) 他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度		
⑥ つながりを尊重する態度 (つ) 人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度	○	
⑦ 進んで参加する態度 (進) 集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を踏まえた上で、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度		

**1 本時のねらい**

- ・琉球王国とアイヌの交易について理解し、琉球やアイヌを支配下に置くことで幕府・薩摩藩・松前藩は利益が得られることをとらえる。
- ・独自の文化を持つ琉球王国やアイヌの人々の生活・社会の変化に着目して、現代の社会への課題をとらえることができる。

**2 めあて、まとめ、振り返り**

<p>(まとめ)</p> <p>薩摩藩は琉球王国を支配下に置いたが、明・清との朝貢は行わせ、文明や産物、海外の情報を手に入れていた。アイヌと松前藩は交易を行っていたが、品物の交換に不平等差が生じたため対立した。対立に勝利した松前藩が主導権を握りアイヌの人々は働き手として扱われた。</p>	<p>(めあて)</p> <p>琉球王国とアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのか。</p>
--	---



<p>(振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球王国は薩摩藩に支配されながらも存続したのは、薩摩藩の意図的な考えがあったことがわかった。</li> <li>・アイヌと松前藩はとても不平等な関係だとおもった。アイヌ語と沖縄方言が消滅危機のある言語と初めて知った。少数かもしれないが独自の文化を尊重し、守る必要もあると考える。</li> </ul>	
--	--

**3 本時の展開**

<p><b>【導入 8分】</b></p> <p>1. 沖縄・アイヌの暮らしをとらえる。</p> <p>2. 学習課題の提示</p> <p><b>【展開 30分】</b></p> <p>3. 琉球王国と薩摩藩</p> <p>1) 支配下としての琉球</p> <p>2) 慶賀使と謝恩使</p> <p>4. アイヌと松前藩</p> <p>1) 交易</p> <p>2) 衝突からの支配</p> <p><b>【終末 12分】</b></p> <p>5. まとめと振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の資料から琉球をアイヌの暮らしを想像させる。</li> </ul> <p>本時の課題： 琉球王国とアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薩摩の支配下にありながら、明・清との関係を続けられた理由を理解する。</li> <li>・琉球王国と薩摩藩の両方の立場から、主張を考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交易品をまとめる</li> <li>・写真から取引が不平等なものになったことに気づかせ、戦いが起こり、勝利した松前藩が主導権を握ったことを理解する。</li> </ul> <p><b>【知技・思判表】 歴史学習ノート</b></p> <p><b>【主体的】 ・振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと振り返りをする。</li> </ul> <p>※ふり振り返りプラス！</p> <p>支配下に置かれたことで、琉球とアイヌの生活の変化に着目し、現在への影響や課題を考えさせる。</p>
---	---

**4 板書レイアウト等**

めあて：琉球王国とアイヌの人々は、薩摩藩や松前藩とどのような関係あったのか

```

graph TD
    Satsuma[薩摩] -- 支配 --> Ryukyu[琉球王国]
    Ryukyu -- 朝貢 --> China[中国(明・清)]
    Edo[江戸幕府] -- 統制 --> Satsuma
    Edo <--> |正式な国交ではない| China
    
```

薩摩視点

Q なぜ、琉球を支配した後も中国との朝貢を許可した？

琉球視点

Q 支配後も琉球王国を存続させ、王国としての地位を保つために薩摩や幕府に対して、どのような行動を取る必要があったのか。

Q 写真からわかることは？

まとめ

琉球王国と薩摩藩

アイヌと松前藩

